

ビルの合間（あいま）
をミニスカートの
セクシーな義母と
一緒に・・・

台所とリビング。

ごく普通のサラリーマンである自分は

ごく普通の暮らし。

・・・・義母と一緒に毎晩凄いいことにな
って白くムッチムチのパンツを脱がし
ている俺だが、

先日、街に買い物へ出かけた。

「ちょっとお尻が成長して・・・下着が
小さくなってきたかも・・・」

ママは恥ずかしそうに言った。

クローゼットの衣服を眺めながら・・・。

当日。

街のゆるやかな雰囲気の中、カップルたちは皆胸が大きい。

鞆が腕に下がっている。

楽しみな想いで街の景色を見ながらふ
と義母の方を向くと、

ビルの一階に気になるケーキ屋を見つ
けたらしい。

義母の目を見ると、

何故か黒縁のメガネをかけている。

!!!?

空に西からどんより曇りが流れてきた・・・・・・・・

ケーキ屋は後にしよう・・・・・・・・

それよりビルの道の向こうになんか怪
しい雰囲気なものがあるよ・・・

黒っぽい陽炎のようなものが見え
た・・・。

.....

大きな山。

ぼんやりとした記憶が蘇る・・・・・・・・

線の細やかなエッチな青春物語。

高揚した俺は

ぼんやりとした気持ちのまま山へと向
かった。。。。。

記憶がそこからは途切れているのだが

その半年後の街のフェスティバルへ行ったことは覚えている。

その山では、

少しへんてこな小屋でフィギュアの少女と確か一緒に過ごした。

その山は

夜と昼が真逆で摩訶不思議な世界だった。

.....。

フィギュアの彼女の右腕には綺麗なアクセサリーがあった。
正座をしてカーペットの上に座っている。

.....。

ハッと気がつく。街の中。

黒縁のメガネの義母はこちらを見て、メガネを外して怪訝な顔をしていた。

眉を細め・・・

「リュウヤ、あなた何してるの??」

まつ毛は少し黒くて足はムッチムチである。

「太もも触ってもいいけど……なんだかあなたの目つきムカつくんだよね」

思わず手を触れる俺に少し義母はブンブン。

怒（おこ）り顔の義母は

白い下着の入ったジーンズの腰部辺りを触る。

だけどお尻と太ももあたりをウズウズさせて俺たちはビルの隙間をゆっくりと歩いていた。

裏通りの先。

噴水広場へ出た。

背丈の高いビルと、ロボットのような怪しい見守り人のような人物が数人囲んでいる。

噴水からは香水のいい香りがする。

義母は小さくて可愛いそのお尻をジーンズの上から右手でさすった。

噴水を取り囲む丸い石壁の中には薄いカサの水がたまっていて

そこでスーツを脱いだ仕事休憩中のサラリーマンやOLたちが

お弁当を食べたあとエロっぽいことをしている。

ポケットにしまった黒縁メガネをもう
一度義母はかけ直し

「よくよく見てみてよ・・・」

そう噴水のOLたちを指さした。

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ○

ほとんど何もしていなかったはずの男
女は

白い靴下を脱いで

ほんの少しだけそこでエッチなことを
していた。

妙にハダカ。

(体験版は以上になります。ご読了あり
がとうございました)